

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792800120		
法人名	合同会社みらい企画		
事業所名	グループホームみらい1		
所在地	福島県西白河郡矢吹町八幡町827		
自己評価作成日	令和4年8月30日	評価結果市町村受理日	令和4年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春夏秋冬を体全体で感じながら、生活することができる平屋造りのホームです。コロナ禍にあり、様々な制限がありますが、中庭に野菜を作って収穫したり、敷地内に季節の花を植え鑑賞したり花摘みをする等、毎月の行事に工夫をしています。食事面では、地元の野菜を取り入れ、地産地消に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.コロナ禍で外出等を制限しているが、地域の桜の名勝地や公園、自宅周辺のドライブを行っている。また、周辺の散歩や法人が手入れをしている畑に盛大に咲いているダリアの花摘みで気分転換を図り、利用者がストレスを溜めないように取り組んでいる。
 2.管理者は職場の「和」を意識し、事業所理念は全職員の意見を取り入れ作成し毎年見直しを図っている。また、職員からLINE活用の提案があり、全職員へ連絡漏れがないよう既読で確認する等、情報の共有に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一回理念を見直し、スタッフ全員で共有しながら考える。申し送り時に唱和し実践に繋げている。	理念は、全職員の意見を集約した地域密着型サービスの意義をふまえたものを作成し、毎年見直しをしている。また毎日の申し送り時に、法人理念と事業所理念を唱和し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、回覧板を回している。また、利用者、家族と築いてきた関係をホーム退所後も継続するよう努めている。	町内会活動はコロナ禍により自粛していたが、今年はクリーン作戦が開始され、利用者と共に参加している。また、地域の方からの野菜等の差し入れは、コロナ禍のため玄関先への持参であるが、交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、ホーム周りをさんぽして、言葉を交わしている程度だが、コロナ禍前は、ボランティア等を受け入れ、地域の方々と関わりを持ちながら、認知症の理解を深めていただくよう努めていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、ホームでの開催を行わず、書面にて意見や要望を伺い、サービス向上に努めている。	現在書面開催を行っている。会議メンバー及び家族へ開催資料とご意見をいただく用紙を送付しており、出された意見は、次回の委員会報告時に取り組み状況を分かり易くまとめ、回答している。また、いただいた意見はサービスへ活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者連絡を取り、ホームでの困りごとを相談したり、市町村からの要望を受け入れるよう努めている。	町役場担当者へ日頃から訪問や電話でケアサービスへの取り組み等の報告や相談をしており、担当者とは顔馴染みになるなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の身体拘束適正化委員会を開き、身体拘束等の適正化に向け、基礎的内容等の知識を普及・啓発するとともに、スタッフ間で注意すべき点を話し合っている。	指針に基づき定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。また、毎月の職員会議で具体的な禁止行為について、印刷物やチェックリストを資料に話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会を設置し、法令遵守等を学ぶ機会を持ち、職員間で話し合い虐待防止に向け周知徹底をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解できるよう学ぶ機会を持ち、必要性を考え活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、十分な説明を行い、疑問や不安な点がないように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の質を高める為、利用者様からやりたい事を確認している。ご家族様からは、面会時や電話、お便り等で意見、要望を伺い、運営に努めている。	利用者から、日々の関わりの中から意見を聞く様心掛け、家族からは、電話や面会時に意見を聞くよう努めている。いただいた意見は運営に反映させ、その一つとして、事業所の毎月の便りに利用者の了解を得た上で多くの利用者の様子が分かる写真を入れる等工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に、管理者や職員と面談を行い、考え方や意見を聞き、会社の環境や方針に反映するよう努めている。	代表者は年2回個人面接を実施し、意見・提案を聞くほか、毎月の職員会議で自由に発言できる雰囲気づくりに心がけ、話す機会を多く設けるよう努めている。LINEの活用についても提案の一つである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に、管理者や職員と面談を行い、考え方や意見を聞き、職場の環境改善やキャリア形成に繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、ホームでの研修・動画での研修を中心に実施している。徐々にではあるが外部研修に参加できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、勉強会の参加を積極的に促し、サービスの質向上やモチベーションアップに繋がるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に向き合いながら、気持ちを受け止めて、共同生活を送る中でも、本人の意向に沿うようなサービスが提供できるよう傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場にたって、分からない事や不安な事がないよう面談をしながら、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族等の要望を基に、他のサービスの利用も提案しながら、生活の質向上に向け支援の工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、介護されるといった一方的な関係でなく、家族の一員として安心と安定の出来る関係が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの関係を継続させながら、お互いの思いを伝えながら本人、家族を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍によって、対面での面会等は制限しているが、リモート面会やガラス越しでの面会等できる限り対応し、関係が維持出来るよう支援を行っている。	馴染みの人や場所は、家族からの情報で把握しており、地域の名勝地や自宅周辺をドライブするなど、関係が途切れない支援に努めている。また、コロナ禍で家族面会を制限しているが、利用者が好きな食べ物を差し入れする家族もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で問題が場合等、職員が間に入り対応している。一人ひとりの得意な事を把握するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も野菜等を届けてくださる方もおり、訪問時に近況伺いながら、これまでの関係性を大切にするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺ったり、日常生活の様子を観察しながら、サービスに反映するようケース会議で検討している。	利用者との会話や家族からの情報等から思いや暮らしの希望を把握している。困難な場合は、これまでの生活状況から職員間で話し合い、また、家族へ相談し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を知り、その人らしさ、その方に合わせた暮らしの継続に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで情報を得て、本人と関わりながら、状況、状態を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日常生活や意向を確認し、ケース会議で話し合い必要な支援を行っている。	入居時に、本人・家族の希望に沿った介護計画1カ月分を作成し、3カ月ごとに見直しをしている。介護計画は、モニタリングをし、家族から電話で意見をいただき、郵送で同意を得ている。緊急時は、現状に即した支援計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を記録し、変化に合わせた必要な支援をケアプランに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的一人ひとりに必要なニーズを職員間で協議している。また、状態の変化に応じて常に対応できる様に支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナの影響により、地域資源との協働は少なくなっているが、定期的な理髪店の利用等必要に応じて協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意見を尊重しながら、安心できる医療が受けられる様支援している。	入居時に、かかりつけ医による訪問診療か協力医による訪問診療を選択してもらっている。受診後は、必要に応じて家族へ連絡し、また、病状により主治医から直接家族へ連絡する等、家族と情報を共有している。訪問看護師が週1回訪問し適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身状態の相談や気づきを都度、看護職と共有している。また、定期的に医療連携の看護師が訪問し、利用者の状態を確認しながら、異常があれば早期受診出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族と密に連絡を取り、状況や状態を把握し、早期退院が出来るよう努めている。また、退院後の生活面での注意点などを共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、本人、家族に意向を確認しているが、状態の変化時や入所してある程度経過した時にも、再度確認し、意向に沿った支援が行えるよう取り組んでいる。	入居時、重度化や看取りについて、家族・本人へ事前意思確認をしている。終末期に再度意思確認をし、主治医・家族・事業所が方針を共有している。看取り計画は現状に即して見直しをし、職員がチームとなって支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てずに、かつ適切な行動がとれる様、定期的に職員全員が行動をとれる訓練や研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	あらゆる災害を想定し、職員、入居者様共に訓練を行っている。非常時に備え備蓄品も準備し有事に備えている。	年1回、消防署立会いによる、総合防災訓練を実施し、また、年間計画により地震・風水害・AED取り扱い訓練を実施している。コロナ禍により地域住民の参加は自粛しているが、協力関係は構築されている。非常用備蓄品として、食料品・水・レトルト食・缶詰など3日分を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛け、心配りに気をつけている。また、プライバシーにも配慮している。	会議等の中で学習し、日常のケアの中で利用者のプライバシーや人格を尊重した対応について職員間で確認しながら支援している。重要書類等はスタッフルームの書庫で適正に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の考えだけで決めずに入居者様の思いを伺い、意志を尊重出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりに合ったお手伝いや出来る事を声掛けし、必要とされていると思える気持ちを大事に、何かしたいと思う気持ちを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、整髪に努めている。季節やその日の天気合った洋服選び、本人の好みにあったものを声掛けし選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	テーブル拭きや配膳・下膳の出来る方には、声掛けし、お手伝いをして頂いている。食事が美味しく召し上がれるように食席にもその都度配慮している。	チルド食と併用し、季節の野菜を活かした手作りの食事を提供している。利用者は可能な限り野菜の下処理・盛り付け・茶碗拭き・テーブル拭きを手伝っている。また、季節の芋がら作りや干し芋・ぼた餅作り等を行ったり、卓上調理器具でお好み焼きやたこ焼きを作るなど食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個別に把握し、水分摂取にも気を配っている。栄養補助食品を使用されている方もおり、個別で支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛け、義歯洗浄の支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定時誘導、また本人に合わせてトイレ付き添いを行い、必要に応じて支援を行っている。	定時誘導と利用者の仕草や表情、行動などの状況に合わせた声かけ誘導を行いながら排泄支援を行っている。また、排泄の自立支援を通しオムツ等の費用軽減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握、個人に合った飲み物の提供、バランスのとれた食事の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必ず声掛けし意向に沿った入浴を心掛け、個人の身体状況に合わせて支援している。	利用者の意向を大事にし、声掛けしながら入浴の順番を決めており、また入浴をまだしていない方から意向を尋ねるようにしている。ゆず湯や入浴剤を活用し、会話を楽しむなど入浴支援を行っている。希望により夕方の入浴も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせて、本人に声掛けを行い、リネン等が清潔か確認し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の内容等を把握、理解に努め薬の変更があった際は、申し送りノートを活用し情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活動作の中でお手伝いして頂く。また嗜好品の提供を通して、楽しみや気分転換して頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、外出する機会が少なくなっているが、本人の希望に沿って、近所を散歩しながらコミュニケーションを計り、本人の意欲や自立を保てるよう地域のサポートや協力を得ながら外出支援を進めている。	日々、周辺の散歩にでかけたり、菜園やダリア畑を眺め花摘みをする等気分転換を行っている。コロナ禍で外出が難しくなっているが、花見や利用者の自宅周辺のドライブを行っている。また、家族の協力で甲間に出かけた方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがある時は、一緒に買物に行き、本人のお小遣いで支払いして頂く。認知症の方の困難を決めつけず、家族等とともに本人にとってのお金の意味を話し合いながら管理することを心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は、家族と大切な人との関係を繋ぐ重要な手段となりますので、1か月に1度、家族にホームでの様子をお知らせし安心して頂いている。プライバシーに配慮しながら電話を使用することも個別に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように自宅との延長として、自分の力でその人らしく過ごせる場となるように一般家庭のような生活感、季節感を心掛けている。	リビングには、テーブル・ソファ・畳コーナーに掘り炬燵があり、窓辺からは田園風景が見られる。壁面には利用者の写真や季節が感じられる飾り付けを行い、居心地良く過ごせるよう配慮している。湿度・温度管理は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数であっても、集団での生活は気持ちが落ち着かかないことがあるので、気の合う方、合わない方等日常生活や会話の中から感じ取りながら対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かし、その人らしく暮らせるよう自宅とのギャップがない空間作りに努めている。	入居時に馴染みの椅子やテーブル、テレビ、等を持参してもらい、使い勝手良く、本人・家族の意向でレイアウトをしている。大事にしているぬいぐるみや家族の写真を飾り、その人らしく居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせた危険防止の対策や自分の力を活かして動けることを支えるための個別の設備、不安や混乱を招くことがないよう環境面での工夫をしている。		